

島根県中山間地域研究センター設立 20周年記念事業

中山間地域研究センターでは平成10年4月の設立以来、中山間地域を生命地域ととらえ、暮らしの受け皿づくりや産業振興・雇用の創出の視点から地域が抱える課題について調査、研究を進めるとともに研究成果の定着や小さな拠点づくりに向けた現場支援などに取り組んできました。

このたび当センターが設立20周年となることを記念し共通テーマのもとに、これまでの研究成果や取り組みを普及する研修会や講演会を県内各地で順次開催し、中山間地域の未来に向け、地域の生活や多面的機能を維持していくための方法を様々な視点から考える機会とします。

記念事業のテーマ「**中山間地域を次世代に引き継ぐために**」 主催：島根県中山間地域研究センター 後援：中国地方知事会

○記念講演会

日時 平成30年 8月29日(水) 会場 くにびきメッセ 小ホール(松江市)
13:30～16:30

記念講演

講師：山内道雄氏(前海士町長)

演題：「ないものはない～離島からの挑戦」

■研究成果の紹介と提案

◆発表① 地域研究スタッフ 主席研究員 有田昭一郎

：「若者世代に選ばれる中山間地域の創り方」(中国5県知事会共同研究)

◆発表② 森林保護育成科 専門研究員 陶山大志

：「中山間地域の条件にマッチした魅力ある農林産物の開発と振興」

◆研究成果のパネル展示

：センター各科・スタッフの研究成果を紹介

■その他

◆入場は無料ですが、事前の申し込みが必要です。(申込先：0854-76-2025)

◆当日は手話通訳及び要約筆記を行います。

○リレーイベント

■講演会以降に記念事業のテーマに沿った研修会や講演会を順次県内で開催します。



山内道雄氏プロフィール
1938年海士町生まれ。
町議会議員を経て2002年から4期16年にわたり海士町長を務め、行財政改革の断行、岩ガキのブランド化などによる産業振興と雇用の創出、隠岐島前高校の魅力化プロジェクトによる全国からの生徒募集など強力なリーダーシップと独自の産業振興策や人材育成策により多くの「トーン者」を呼び込み、全国から注目される地域づくりを進める。

島根県立農林大学校・林業科

平成31年度 学生募集

いざ来たれ！
森林・林業の未来を切り開く挑戦者たち

◆募集人員及び修業年限等

科 名	募集人員	修業場所	修業年限
林 業 科	10 名	飯南町上来島	2 年
農 業 科	30 名	大田市波根町	



詳しくは「学生募集要項」をご覧ください

平成31年度 学生募集要項・学校要覧等は、
島根農林大ホームページからご覧いただけます

<http://www.pref.shimane.lg.jp/norindaigakko/>

オープンキャンパス・学生募集の詳細につきましては、島根県立農林大学校
教育スタッフ[教務担当]までお問い合わせください。(電話 0854-85-7012)

次号 特集予告

・資源環境科「新しい酒米ができました」他

中山間プレス
Webサイト



島根県中山間地域研究センター情報誌

Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス
研究の森から中山間地域を応援します

2018
Vol.27

編集・発行

島根県中山間地域研究センター
〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207
TEL 0854-76-2025 FAX 0854-76-3758

WEBで検索

島根県中山間地域研究センター

検索



島根県中山間地域研究センター情報誌

Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス

2018
Vol.27



研究の森から中山間地域を応援します

東三瓶フラワーバレー(撮影:嶋田慎司)

【特集】

きのこ・特用林産科

「はじめまして！きのこ・特用林産科です」

木材利用科

「島根県産スギを使用したCLTの研究」



はじめまして！きのこ・特用林産科です

当センターの農林技術部に、本年度からきのこ・特用林産科が新設されました。

この科では、森林資源を活かした地域特産品づくりを進めるため、きのこの品種開発や栽培技術、特用樹の栽培技術、また、これらが持つ機能性に関する研究などを行っています。

栽培や商品化に関するご相談、病害虫診断のほか、野生きのこの鑑定などにも応じます。

今回はこの科で取り組んでいる研究の中から、特用樹に関する研究課題をご紹介します。



集落営農組織多業化支援のための特用樹の栽培技術開発（H30～32）

中山間地域の集落営農組織は農地の管理など地域運営の中核的な担い手となっています。組織の継続・発展のためには、米づくりに加えて、今後は経営の多角化（＝多業化）が必要です。

このため、需要と収益が見込まれ、米づくりの繁忙期と生産作業時期が重ならない品目であるコウゾ、クロモジ、クコの栽培技術確立に取り組み、多業化品目として提案します。

コウゾ 手すき和紙の主要原料

和紙はアート素材や文化財保存修復の資材としても国内外で高く評価されています。県内ではユネスコ無形文化遺産に登録されている石州半紙をはじめ、和紙産地が各地にあり、書道用紙や障子紙のほかに灯りなどのインテリア、神楽道具、日用雑貨など多様な製品がつくられています。しかし、原料のコウゾは生産者の高齢化などにより国内生産量が大きく減少しています。



クロモジ 香りのよいお茶や精油が人気

和菓子のつま楊枝の原料として知られているクロモジは、薬用としての需要もあり、国内生産量は増加傾向です。県内ではお茶や精油の原料とされ、商品の種類が増えています。しかし、ほとんどが山林に自生する株からの採取であり、品質、生産量が不安定なため、栽培による安定生産が求められています。



クコ 健康・美容業界の注目食材

中国産クコが主に生薬原料として輸入されていますが、国産クコはほとんど流通しておらず希少価値があります。

また、クコはゴジベリーとも呼ばれ、健康や美容関連の業界から栄養価の高いスーパーフルーツとして注目されています。県内では本物志向や食品安全性に関心の高い方から国産クコに対する問い合わせが多く、地域特産品にする計画が進みつつあります。



栽培や商品化の相談をお待ちしています！

これらの特用樹について、試験的に栽培してみたい、また商品化に取り組んでみたいというご希望がございましたら当科にご連絡ください。栽培適地や管理方法などについて技術的な助言をさせていただくほか、苗木や原料サンプルの提供についてご相談に応じます。

お問い合わせ：きのこ・特用林産科（電話：0854-76-3815）



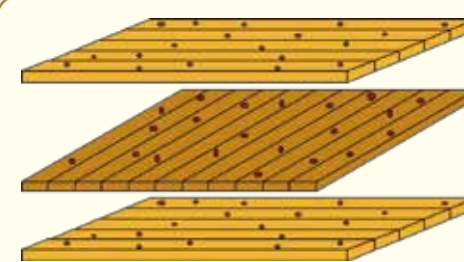
島根県産スギを使用したCLTの研究

注目のCLT



CLT（Cross Laminated Timber：直交集成板）とは

- ・ラミナ（丸太を鋸で挽いた木の板）を並べた層を、層毎に直交するように重ねて接着した大型の面材料です。
- ・建築物の壁や床に使用することができ、大きな建物が建設できます。
- ・軽量で強度があり、断熱性に優れる特徴があります。
- ・1990年代に開発され、今ではヨーロッパ各国やカナダ、アメリカで利用が進んでいます。



CLTのラミナ構成

日本での取り組み



- 2010年頃 利用の取り組みスタート
森林総合研究所や建築研究所等で研究進む
- 2013年 「直交集成板の日本農林規格（CLTのJAS）」が制定
- 2015年 実大震動台実験開始（～2016年度まで）
- 2016年 建築基準法に基づく告示を交付、施行
告示に基づく構造計算等を行うことで建築が可能に

CLTを使って建築物を建てる環境が整ってきました。

当センターでは



県産スギ材を使い、県内の木材加工業者がCLTを製造できるよう、小型の一般的な機械を用いた製造方法を研究しています。



CLT 建築の例

高知県立農業担い手育成センター長期研修用宿泊施設（写真撮影：高知県）

試験体の作製



ラミナを選びます。



接着します。



完成です。

性能の確認 完成したCLTについてJASに基づき強度と接着力を確認すると十分な性能がありました。



曲げ強度試験 作製したCLTを曲げ、強度をみる



接着強度試験 接着した面をはがすように力をかけ、接着力をみる

県産スギを使用し県内の木材加工業者が持つ設備でCLTが製造できるとわかりました。

今後は、中・大規模な建築物の床材としての利用に向けた試験を行います。

出典：（一社）日本CLT協会（2016）「これを読めばわかるCLT」

お問い合わせ：木材利用科（電話：0854-76-3826）